

第六次白石市総合計画・地域づくり計画【小原地区計画（令和4年度～令和8年度）】

テーマ：暮らしを支える密なつながりと持続可能な仕組みのある里づくり

基本方針	具体的な取り組みの方向性	事業実施年度					備考
		R4	R5	R6	R7	R8	
1. 次世代にしっかりとバトンを渡せるよう、持続可能な地域運営のあり方・仕組みを構築していきます。	① 既存の行事・組織の見直しを進め、地域運営に関する体制・仕組みを再編する。						重点施策
	② 若い世代や転居者に対して積極的に声をかけ、各々の都合を十分に配慮した参画の機会を整える。						
	③ 人口の推移やイベント参加者数などのデータを、随時、地区住民で共有できる広報体制を整える。						
2. 隣近所・住民同士のつながりをもっと密にし、お互いの助け合いと交流が日常的にある、健康寿命の長い地域をめざします。	① 健康維持のための脳トレや各地区でのふれあいサロンをさらに充実させると共に、サロン相互の連携・交流を推進する。						重点施策
	② 検断屋敷まつりや柿渋づくりなど、日々の暮らしから培われたものづくりの技能・文化を伝える多世代交流の機会を増やす。						
	③ 共同作業等の人手不足を補うために、おたがいさまの精神で他地区の住民が作業を手伝う仕組みを検討・実行する。						
3. 移動手段や通信環境など、日々の暮らしを支える生活インフラの整備・充実を図っていきます。	① 簡易水道の維持管理に向けた体制を整備し、持続可能なあり方を検討する。						重点施策
	② ICT基盤を有効活用していくための勉強会を実施する。						重点施策
	③ いつまでも小原に暮らし続けられるよう、交通弱者のための移動手段の確保や、手軽に買物ができる場・機会を整備する。						
4. 小原小中学校を核に、世代を超えた交流・活躍の場を生み出しながら、郷土愛と地域を担う人材を育てていきます。	① 学校の年間行事を地区全体で共有し、住民による授業参観や行事参加等の機会を増やす。						
	② 地区外から通学する子供の保護者と地区住民が交流する機会を積極的に設ける。						重点施策
	③ 住民がゲストティーチャーとなって、地域のことを子どもたちに伝える機会を増やす。						